

前橋市関根町周辺における野鳥の種類及び生態調査-2

時田真友美（群馬県立桐生高等学校 2 年）

【はじめに】

昨年度の高校生学芸員で鳥のゴールデンタイムと言われている日の出前後の時間帯で野鳥の観察を行った。その結果、前橋市関根町周辺には 17 種類の鳥がいて、季節により観察できる鳥に違いがあることが分かった。この観察で鳥が活動を始める時間が種類によって違うのではないかと感じた。

そこで、今年度もどんな種類の鳥が観察できるかを調査すると共に、鳥が活動を始める時間の変化を観察した。

【目的】前橋市関根町周辺で

- ①日の出前後でどんな種類の鳥が観察できるかを明らかにする
- ②季節により鳥が現れる時間帯に変化があるのかを明らかにする

【研究の方法】

2024 年 3 月～2025 年 1 月の毎月 1、2 回、日の出 30 分前～日の出 30 分後までの間、前橋市関根町にて鳥の観察を行った。

- ・鳥の姿を目視で確認し、ノートに記録し、写真と動画で記録する。
- ・鳴き声のみであれば、鳴き声をカタカナでノートに記録し、可能であれば動画にて記録する。
- ・2023 年 7 月～2024 年 2 月の記録と合わせて、観察できた個体数と現れる時間の傾向を見る。

【観察地について】

観察地は、60m 四方の開けたサクラ、ケヤキなどの落葉樹の高木がある公園から西へ 100m ほどの住宅地である。観察地の西側には幅 40m の用水路が北から南へ向かって流れている。観察地と用水路の間には用水路に沿って遊歩道があり、サクラ、キンモクセイ、ハナミズキなどが植えられている。用水路のさらに西側には群馬大学荒牧キャンパスがあり、スギなどの高木がある。

【結果】

2023～2025 年に観察できた鳥を表 1 に示す。

・一年中観察できた鳥は以下の通り

スズメ、カオジロガビチョウ、オナガ、カラス、ヒヨドリ、キジバト、カワラヒワ、ムクドリ、シジュウカラ、サギ、カワウ

・6 月～8 月にツミがいた。

・12 月～2 月にツグミ、メジロ、ジョウビタキがいた。

① 観察できた鳥の種類別の個体数

ここでは観察日数 25 日間中半分以上の日数観察できたスズメ、カオジロガビチョウ、オナガ、カラス、ヒヨドリ、キジバトのみ結果を示し、考察する。

図 2, 4, 6, 8, 10, 12 は横軸が観察日で、縦軸が観察できた羽数。

スズメ(図 1, 2)：観察地隣接家屋の樋と屋根との間で 6 月～8 月に営巣していた。巣立ち後はここをねぐらとして使用している。観察地隣接家屋の樋と屋根の間から 1～2 羽出てきていた。

4 羽以下で観察できた日が 15 日間あった。2024 年 5 月 11 日に 17 羽、9 月 16 日には 10 羽観察できた。

カオジロガビチョウ(図 3, 4)：観察地でヒナと共に過ごし、3～4 羽でいる日が多かった。2024 年 5 月にヒナ 2 羽がいた。観察地から 100m ほど北と東にそれぞれ 3～4 羽いる。4 羽以下で観察できた日が 11 日間あった。2023 年 8 月 13 日に 11 羽、2024 年 8 月 25 日に 13 羽観察できた。

オナガ(図 5, 6)：観察できた 21 日間うち、15 日間は遊歩道にある 3 本のキンモクセイから出てきた。各キンモクセイから 15 羽以上出てきた。キンモクセイから出た後は遊歩道にあるサクラなどに一旦集まって、東に向かった。

15 羽以上の集団でいた日が 13 日間あった。2023 年 12 月 3 日から 1 月 1 日と 2024 年 12 月 15 日から 1 月 13 日では 25 羽以上の集団を観察できた。

カラス(図 7, 8)：観察時に飛んでくるカラスは荒牧キャンパスの方向から飛んできて、北に向かうことが多かった。北から飛んできたカラスを観察できた日数は 25 日間中、4 日間のみであった。一度に飛んでくるのは 2～4 羽であった。

2023 年 12 月 3 日から 2 月 12 日までと 2024 年 12 月 8 日から 1 月 13 日には 10 羽以上観察できた。

ヒヨドリ(図 9, 10)：遊歩道にあるサクラとハナミズキに 3～4 羽で観察できることが多かった。2024 年 2 月 12 日は 10 羽以上の集団が遊歩道にあるサクラに降り立ち、様々な方向に

向かうのを繰り返し観察できた。2025 年 12 月 8 日はキンモクセイから出てくることが多かった。

10 羽以下の集団を観察することが多かった。2023 年 2 月 12 日と 2024 年 12 月 8 日から 1 月 13 日に 15 羽以上の集団を観察できた。

キジバト(図 11, 12)：マンションのベランダと屋根に現れる。マンションから移動することはあまりない。10 羽未満でいることを多く観察した。

2024 年 7 月 28 日から 10 羽以上の集団を観察することが多くなった。

② 季節別の鳥が現れる時間

図 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19 は緑が夏(6 月～8 月)、黄色が秋(9 月～11 月)、水色が冬(12 月～2 月)、赤が春(3 月～5 月)を示している。また、横軸が月で、縦軸は日の出を中心として、上にいくと日の出後 10 分、20 分、30 分となっていて、下にいくと日の出前 10 分、20 分、30 分になっている。

スズメ(図 13)：2023 年 7 月～8 月は日の出後 5 分～20 分、9 月～11 月は日の出前 15 分～日の出の時刻、12 月～2024 年 2 月は日の出前 10 分～5 分、3 月～5 月は日の出前 10 分～日の出後 10 分、7 月～8 月は日の出前 20 分～10 分、9 月～11 月は日の出後 20 分、12 月～2025 年 1 月は日の出前 15 分～日の出後 5 分に現れた。

カオジロガビチョウ(図 14)：2024 年 11 月までは日の出前 15 分～5 分に現れることが多かったが、12 月から日の出後 15 分に現れた。2024 年の冬は -1°C で、2023 年の冬の 6°C より気温が低く、現れる時間が遅かった。

オナガ(図 15)：季節に関わらず日の出前 25 分～5 分に現れる。

カラス(図 16)：季節に関わらず日の出前 30 分～5 分に現れる。

ヒヨドリ(図 18)：夏では日の出の時刻～日の出後 25 分、冬では日の出前 25 分～5 分に現れた。

キジバト(図 19)：季節に関わらず日の出の時刻の前後 10 分に多く現れる。

【考察】

① 観察できた鳥の種類別の個体数

・観察できた個体数に大きな差があるのは、同じ個体を何回も数えている可能性があるからだ考える。

・スズメは集団ではなく、ペアで行動していることが多いと考える。

・スズメが10羽以上いたのは、理由はわからないが、同一個体を複数回数えた可能性がある。

・ガビチョウは3~4羽でいることが多いので、子と共に過ごしていると考えられる。

・ガビチョウは観察地から100mほど北と東にそれぞれ3~4羽でいるので、観察地の近くに2グループいると考えられる。

・ガビチョウは8月に10羽以上観察できたので、観察地の近くにいる他のグループと一緒にいたと考えられる。

・オナガは15羽以上観察されることが多く、集団で過ごしていると考えられる。

・オナガは12~1月に25羽以上観察でき、観察できるオナガはすべてキンモクセイから出てくるため、冬になると群れの中の個体数が増えると考えられる。

・カラスは12~2月に10羽以上観察でき、カラスのほとんどが荒牧キャンパスの方向から飛んできているので、キャンパス内で集団で過ごしている可能性がある。

・ヒヨドリは12~2月に観察できる個体数が増えるが、決まった方向から飛んでこないのので、同一個体を複数回数えたことにより増えているだけなのかもしれない。

・キジバトが2024年になって数が増えたのは、マンションで巣を作り、繁殖したか、他の場所にいたキジバトが何らかの理由でいれなくなり観察地に來たと考える。

② 季節別の鳥が現れる時間

・スズメは現れる時間が季節に関連なく変化しており、現れる時間の差が最大40分と大きすぎるので、法則性が見いだせない。

・カオジロガビチョウは2024年11月までは日の出前15分~5分に現れることが多かったが、12月から日の出後15分に現れた。2024年の冬は-1℃で、2023年の冬の6℃より気温が低かったことが関係しているかもしれない。

・オナガとカラスは季節に関わらず日の出よりも早く現れるので、季節によって気温は異なるため、日の出前のある程度の明るさで鳴き始め、現れると考える。

・ヒヨドリは夏では日の出の時刻~日の出後25分、冬では日の出前25分~5分に現れたので、一年を通して同じ時間に現れるか季節によって現れる時間が決まっていると考えられる。

・キジバトは季節に関わらず日の出の時刻の前後10分に多く現れるので、日の出のある程度の明るさで現れると考える。

【まとめ】

①日の出前後でどんな種類の鳥が観察できるか？

②季節により鳥が現れる時間に変化があるのか？

これらを明らかにする目的で以下の方法で調査を行った。

2023 年 7 月～2025 年 1 月の毎月 1、2 回、日の出 30 分前～日の出 30 分後までの間、前橋市関根町にて鳥の観察を行った。

その結果以下のことがわかった。

① 17 種類(ツミとツグミが 2023 年に観察でき、ツバメとシメが 2024 年に観察できた。)

② 鳥が現れる時間は季節によって変化があった。

【今後の展望】

・個体数を数えるときに同一個体を複数回数えないために、個体識別できるような個々の特徴を探したい。(例：ガビチョウの頭のボサボサ感)

・現れる時間の規則性を見つけるためにはもっと長い期間観察し、データを増やす必要があるので、今後も続けていきたい。

・現れる時間が気温や天候とも関係しているのかを調べてみたい。

【参考文献】

平野伸明（2009）身近な鳥の図鑑、ポプラ社、東京都

西教生（2019）見つけて楽しむ身近な野鳥の観察ガイド、緑書房、東京都

唐沢孝一（2023）都会の鳥の生態学、中央公論新社、東京都

おおたぐろまり（2016）鳥のくらし図鑑、偕成社、東京都

【図・表】

表 1: 2023～2025 年に観察できた鳥の一覧

	2023	2023	2023	2024	2024	2024	2024	2024	2025
	4月～8月	9月～10月	11月～12月	1月～2月	3月～4月	5月～8月	9月～10月	11月～12月	1月
スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
カオジロガビチョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
オナガ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
カラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○
カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	×	×	×
サギ	×	×	○	○	×	○	○	○	○
カワウ	×	×	○	○	×	×	×	○	○
ツミ	○	×	×	×	×	×	×	×	×
ツグミ	×	×	○	○	×	×	×	×	×
ジョウビタキ	×	×	○	○	×	×	×	○	○
メジロ	×	×	○	○	○	×	×	○	○
ツバメ	×	×	×	×	○	×	×	×	×
シメ	×	×	×	×	○	×	×	×	×



図1：スズメ



図2：観察できたスズメの個体数



図3：カオジロガビチョウ

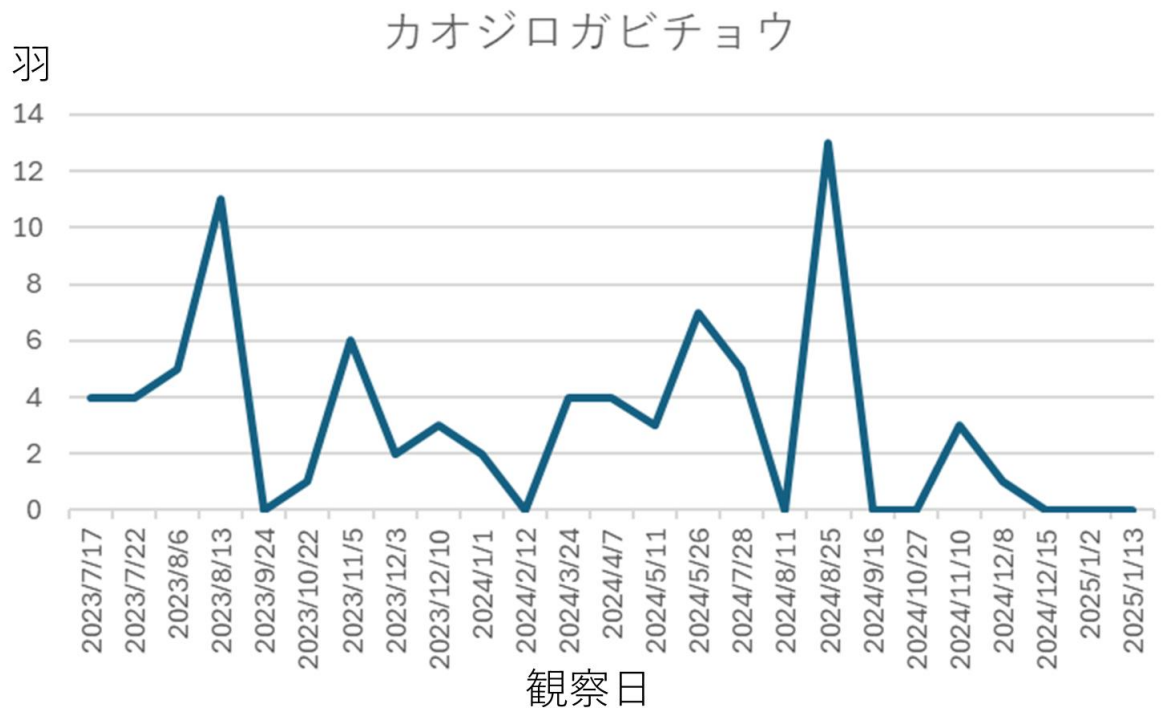


図4：観察できたカオジロガビチョウの個体数



図 5:オナガ

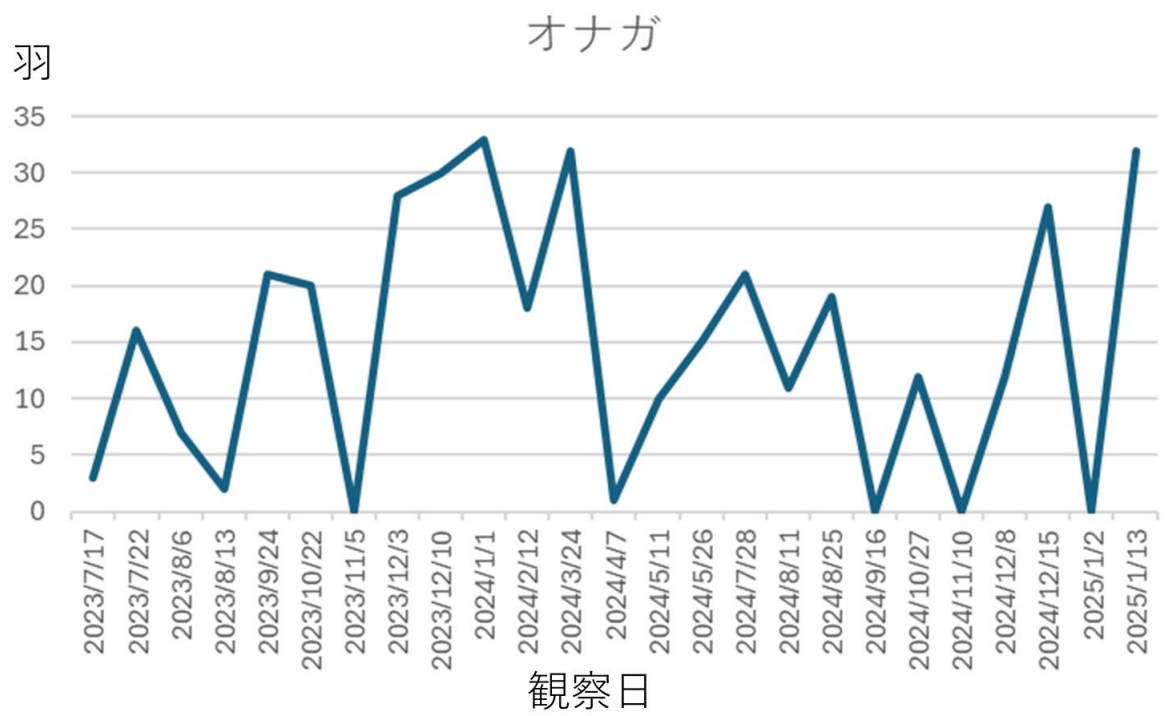


図 6：観察できたオナガの個体数



図7：カラス



図8：観察できたカラスの個体数



図 9：ヒヨドリ

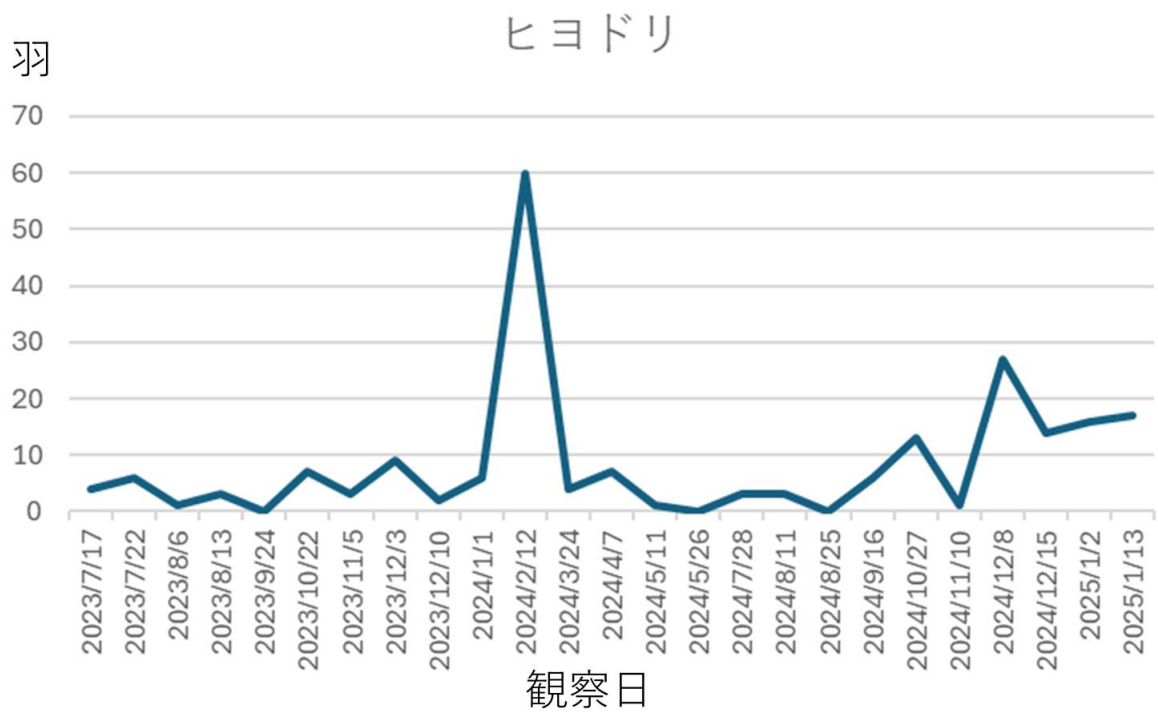


図 10：観察できたヒヨドリの個体数



図 11：キジバト



図 12：観察できたキジバトの個体数

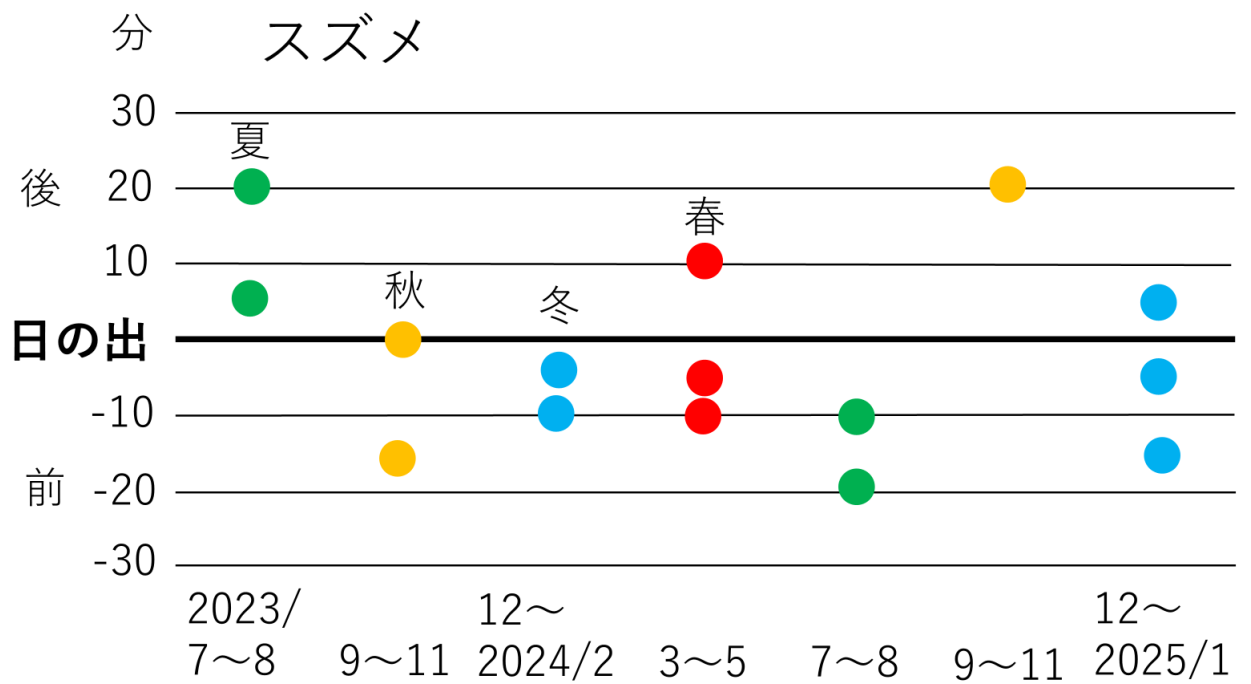


図 13：スズメが現れる時間

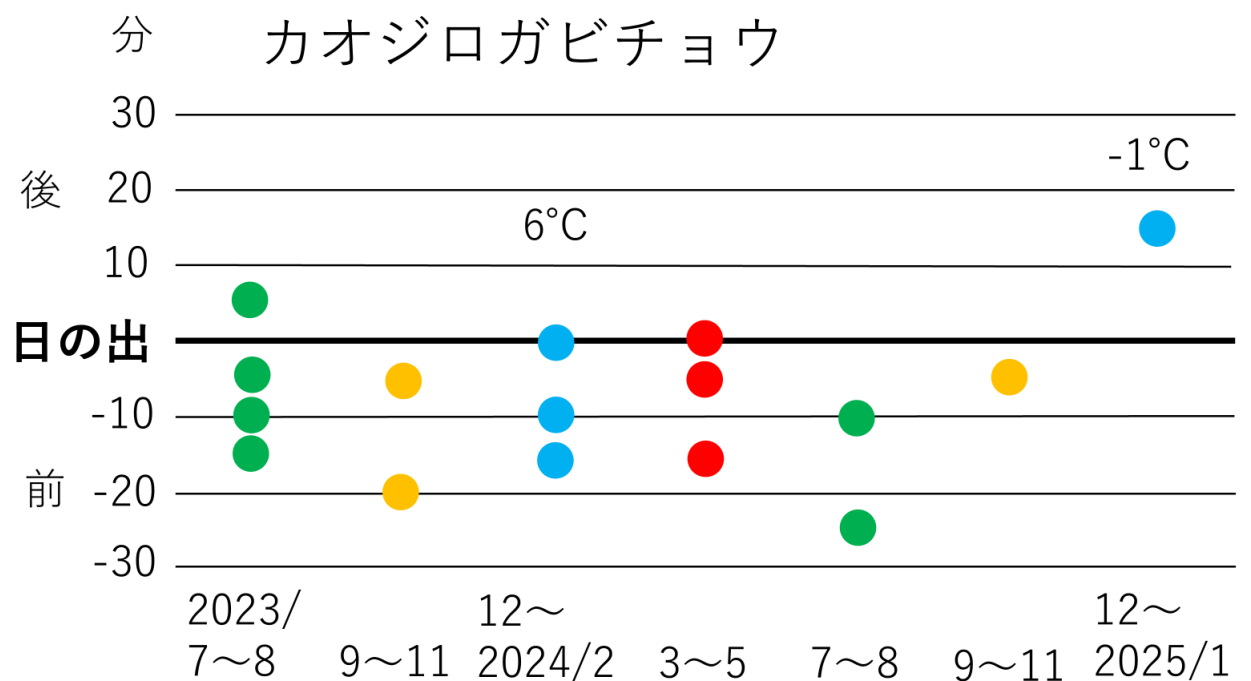


図 14：カオジロガビチョウが現れる時間

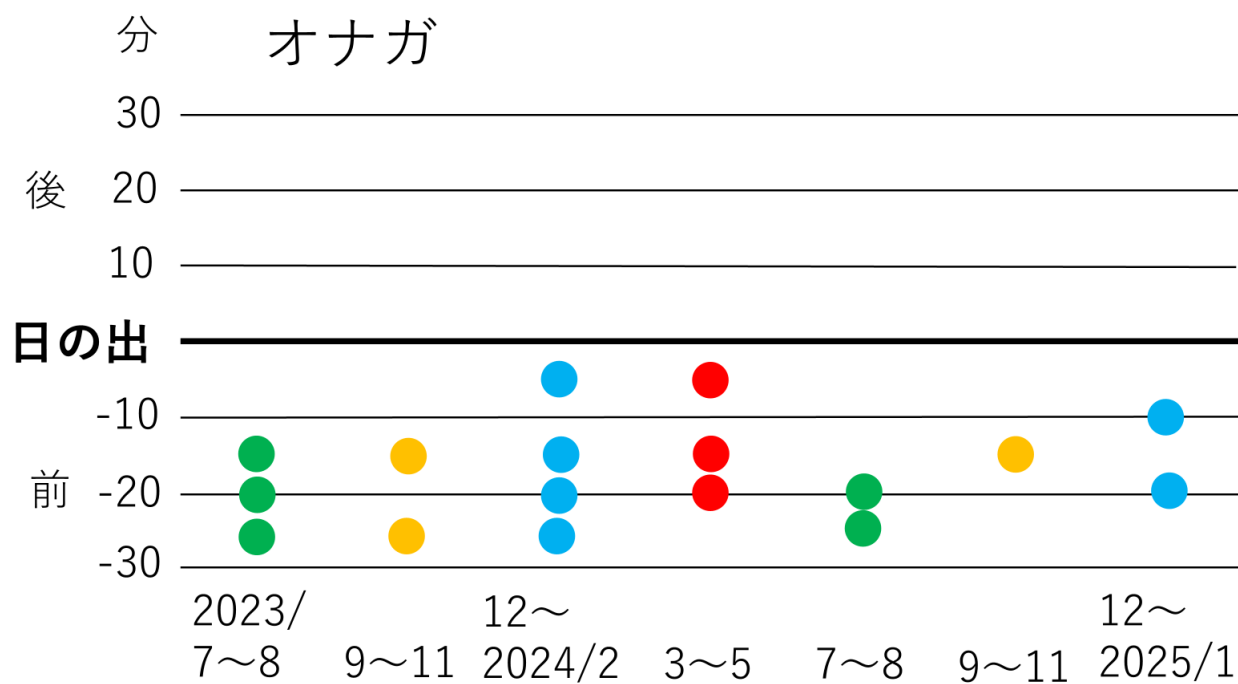


図 15：オナガが現れる時間

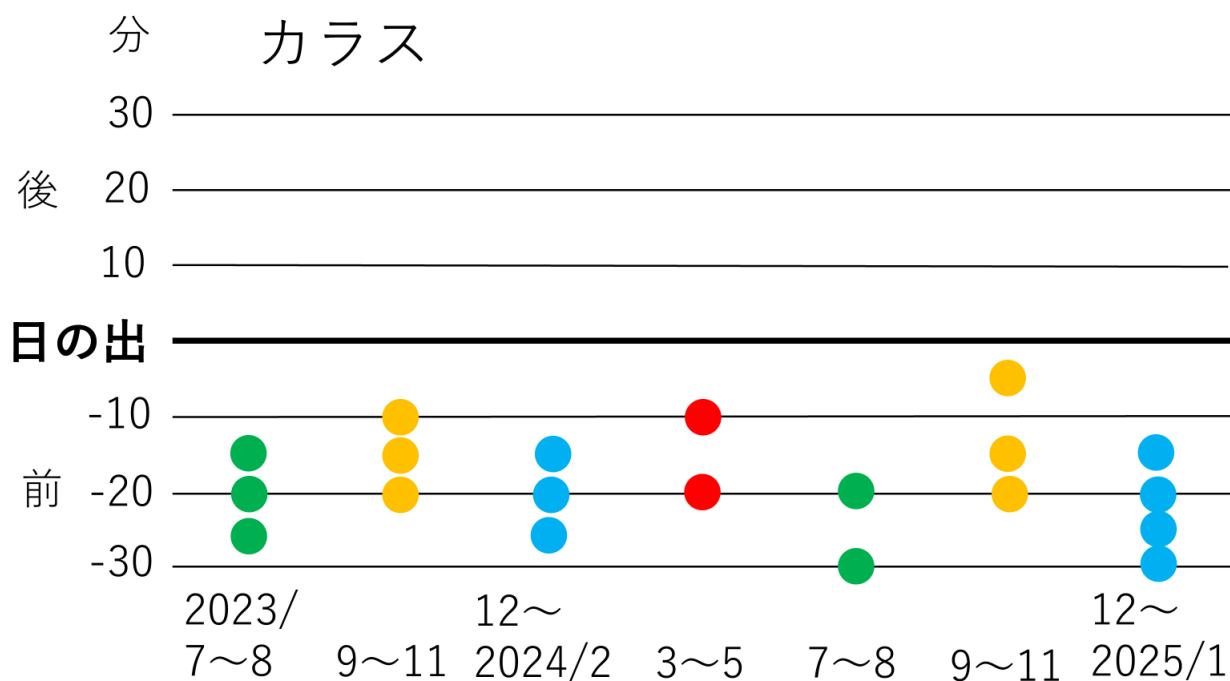


図 16：カラスが現れる時間

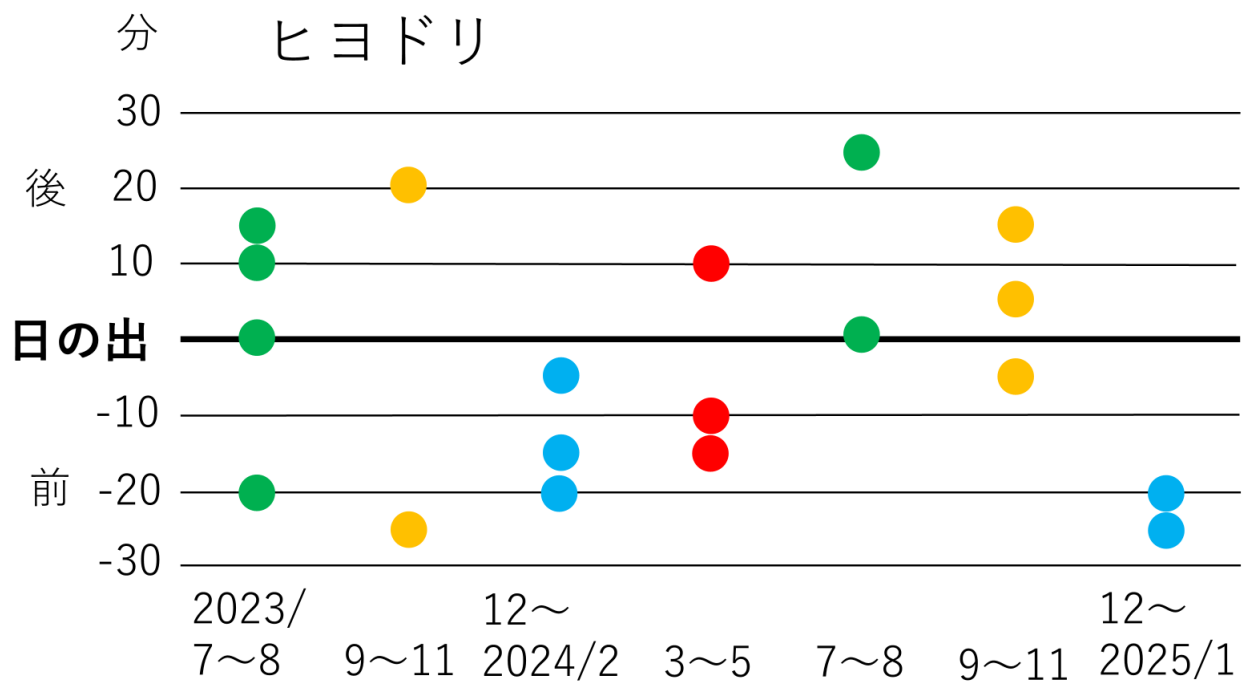


図 17：ヒヨドリが現れる時間

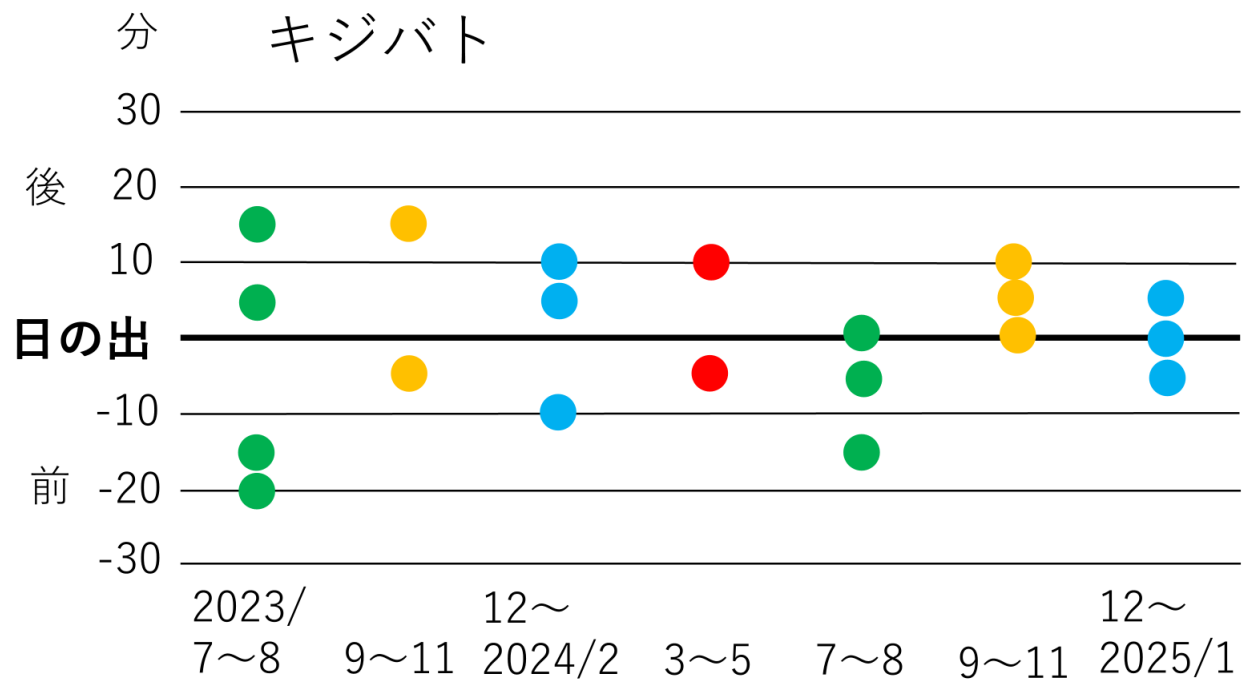


図 18：キジバトが現れる時間